チャルチュアパ遺跡タスマル地区 B1-1 建造物南側より出土した供物に関する一考察

伊藤伸幸・柴田潮音

はじめに

チャルチュアパ遺跡は、エル・サルバドル共和国の東部に位置しており（図１）、ラス・ビクトリアス、エル・トラピチェ、カサ・ブランカ、タスマル、ペニャテなどの地区に分かれている。タスマル地区はチャルチュアパ遺跡では、南に位置している。この地区では、ボッグスが 1940 年代と 1950 年代初めに発掘を行った（Boggs 1943 a, b, 1944, 1945, 1950）。1947 年には国の歴史記念物として認定されたが、考古学的に明らかになっていない点が多くあった。この曖昧さはこの地区の建造物の発展段階の複雑さにあり、様々な大小の改築や増築が建造物に施されていた（図２）。

現在、タスマル地区では、２つの考古学調査が行われている。一つは、CONCULTURA（エル・サルバドル国立文化芸術審議会）が B 1-2 建造物で実施している修復に関連する調査である。もう一つは、名古屋大学の調査である[1]。

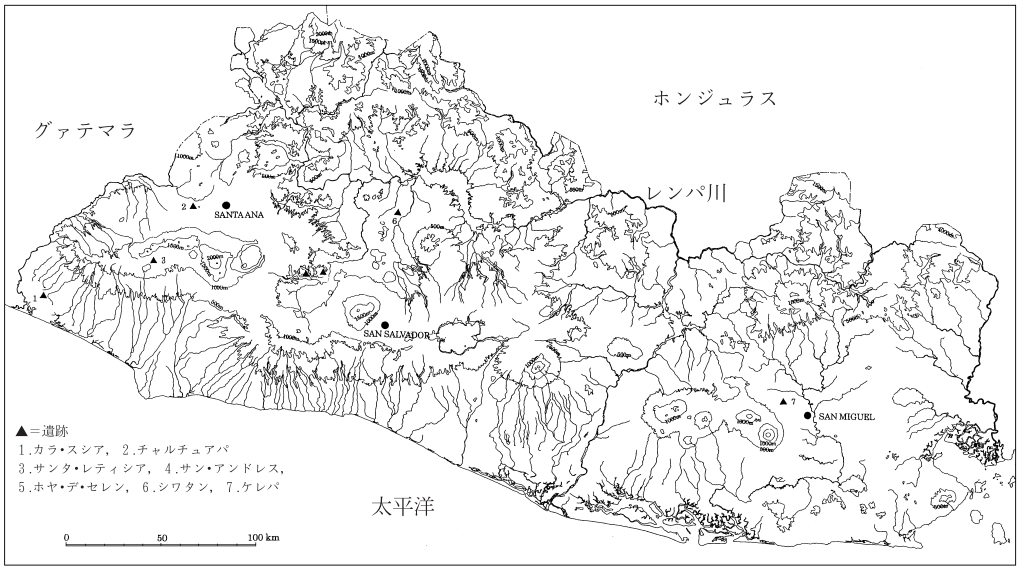


図１　エル・サルバドルにおけるチャルチュアパ遺跡と主要な遺跡

2005年2月15日、名古屋大学の考古学調査が開始した。この調査目的の一つは、タスマル地区に球戯場があるかを確認することである。この地区の北東部分には、球戯場を形成すると考えられているマウンド2基がある。しかし、1940年代まで墓地として使われていたために、ボッグスはこの部分で調査を実施しなかった。そのうちの1基は部分的に破壊されている。このマウンド2基は球戯場であったかは考古学的に確認されていない。もう一つの目的は、この地区の建築史に関する仮説を検証することである。仮説に従うと、約30mの長さを持つ方形の基壇が東と南に存在する可能性がある。

以下では、最初にこの仮説を解説する。次に、第2-4次調査の結果について検討する。最後に、この調査で出土した供物について、そこにみられる考古学的意味を考察する。

図2　タスマル遺跡公園測量図

タスマル地区B1-1建造物の建築史に関する仮説

ここで示す仮説は、2003年から2004年にかけて、CONCULTURAと名古屋大学が行った測量調査に基づいている。この測量調査は、タスマル地区における保存修復作業が必要な部分の状態と位置を記録するために実施された。

“列柱の建造物”（西基壇の上部建造物）を測量した結果、この建造物は南北30m長で独立して建てられたことが確認できた。B1-1建造物北には、“列柱の建造物”に似た建造物（北基壇）があった。北基壇は西基壇と同じ長さを持ち、それぞれの建築軸は直角に近い87度で交差している（図3）。

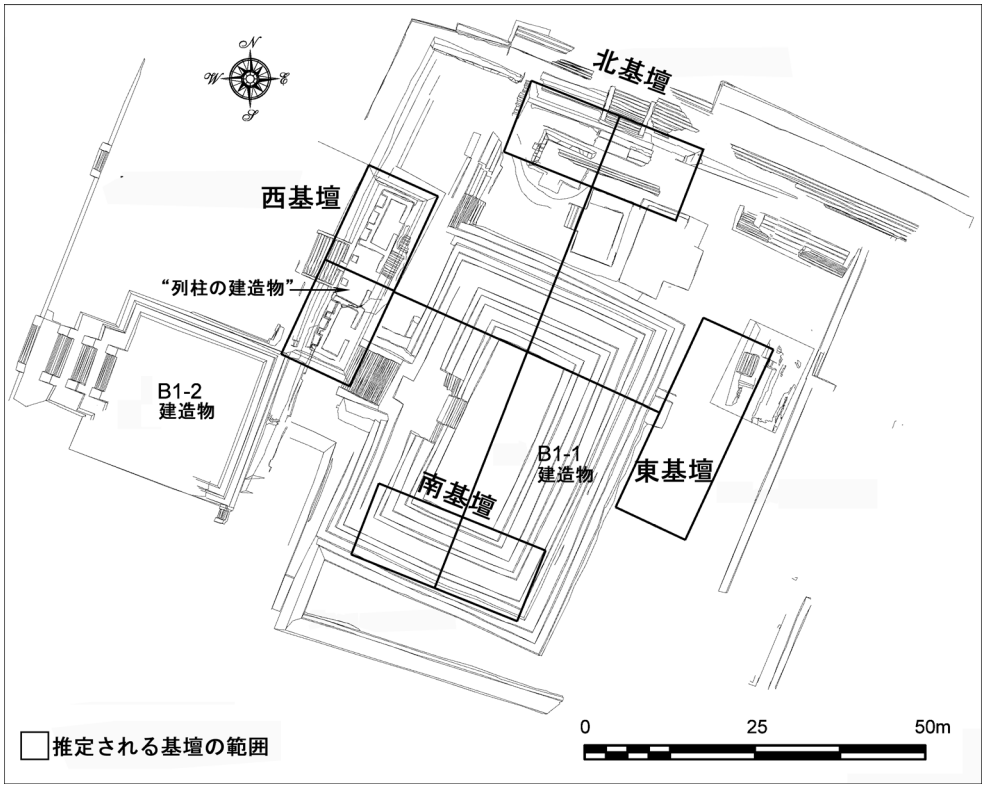


図 3　仮説に拠る基壇 4 基の位置図

B1-1 建造物は、大きな基壇（大基壇）の上に建っていた。大基壇は東西約 73m南北 87mであった。北基壇と西基壇は大基壇の一部と成っていた。この基壇 2 基は類似しており、同時期若しくはなんらかの関係を持って、当初、独立して建造されたことが考えられる。

後の時期の増改築が考慮されるが、上部の建造物が左右対称に確認されるのは西基壇のみである。一方、この地区の建造物の正面は西を向いている。このため、北基壇より西基壇が重要な意味をもち、中心となる表玄関があった。北基壇が西基壇の正面に対して左右対称に建てられていたと仮定するならば、南基壇は北基壇と同じ距離にある可能性がある。

西基壇と北基壇の距離を測った結果を用いて、南基壇の位置を計算した（図 3 ）。仮説に従うと、南基壇の南側は拡大された大基壇の南端に相当する。また、この基壇では少なくとも 3 回拡張された可能性がある。この推定される基壇の南側は最初か 2 度目の建設期に相当する。このような建造物の拡張が北・西・南基壇にも考えられる。同様にして、東基壇でも建築における対称軸を想定すると、その位置が計算できる。

B1-1 建造物の東側には、この建造物に接して平面で約 4 × 3 mの小さな構築物がある。B1-1 建造物に属するものかは不明であるが、西基壇の建築軸を東に延ばすとこの構築物の中心を通る。

東側では、東に向かって少なくとも3回の大基壇の拡張が確認され、計算では最初の拡張期の東基壇がこの構築物の位置にある。

西基壇の上部の建造物は“列柱の建造物”として知られ、方形の柱群と左右対称に南北で各1部屋ある。西の階段を上ると北と南の部屋の間に2つの柱が建っている空間がある。この空間が奥への入口となっている。北の部屋の出入口は東側のみにある[2](図3)。東側ではこの基壇の裏側は部分的にしか発掘されておらず、後側に建造物があったかどうかは不明である。B1-1建造物(ピラミッド)が造られる前の主神殿については、以下の2つの可能性がある。

1．西基壇は、当初、主要な神殿として機能していた。

2．中心となる基壇は北基壇と西基壇が交差する部分にあった。

仮説に従えば、この神殿はB1-1建造物の建築軸の北13mにあったと考えられる。ボッグスはB1-1建造物の階段中央にトンネル発掘を実施したが、この神殿に相当する建造物は検出されなかった。しかし、西基壇の北の部屋の入口は東側にあるため、西基壇の後に建造物があり、この上部の建造物が主神殿として機能していた可能性がある。

この仮説に従えば、タスマル地区の建造物の発展は次のようになる。

主神殿と4基の基壇を東西南北に建造した。西基壇は、主神殿に至る正面の入口を持つ建造物として機能していた。

次に、基壇4基の間にある空間を充填し、65×74mの巨大な基壇(大基壇)となった。その後に、この大基壇の上にB1-1建造物(ピラミッド)が主神殿を覆うように建設された。資料が少ないために、B1-1建造物建設の発展段階は不明である。しかし、少なくとも3回拡張されたことが分かっている。

B1-1建造物に関連する発掘調査

⑴B1-1建造物東側の発掘調査

第2次調査(2005年2-3月)では、東基壇を確認するために第6-8試掘坑をB1-1建造物の東側にいれた(図4)。各試掘坑では床面が2-3面確認できた。これらの床面は大基壇に関連していた。B1-1建造物の東側では建築材として1種類の材料を使うのではなく、様々な建築材(アドベ・ブロック、粘土、石)が使われていた。

第6試掘坑では、床面が3面あり、上から順に床6-1,6-2,6-3とした。床6-3は最も厚く、3.5-5cmあった。床6-2は床6-3の上に造られ、北に向かって下がっていた。この床は1.5-3cmの厚さを持っていた。床6-1は床6-2の北部分を水平にするために造られ、第6試掘坑の北と西断面にその痕跡がみられる。床6-3の下には、アドベの痕跡は無く、土とタルペタテ[3]の塊が観察できた(図5a)。

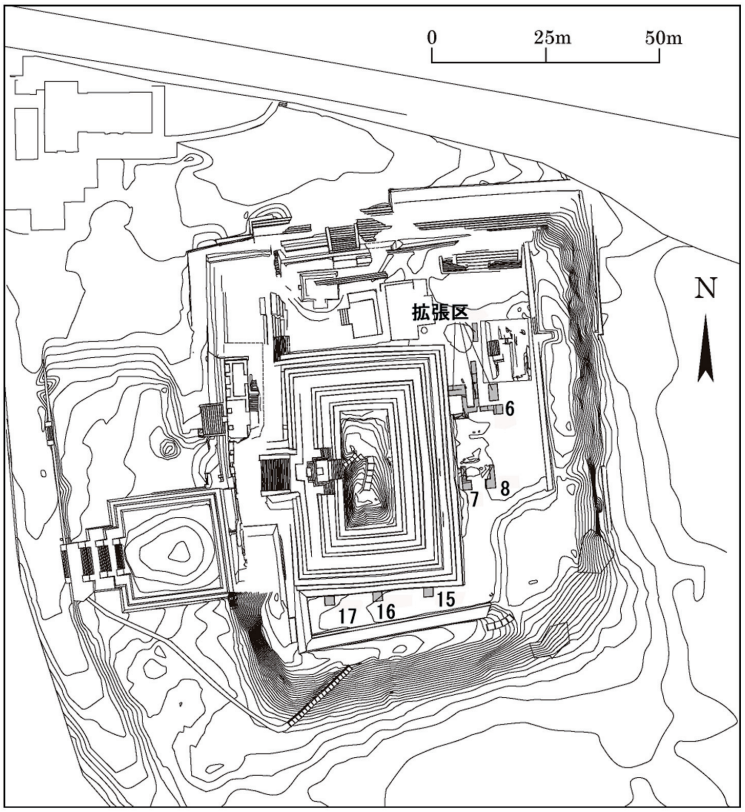


図 4　第 6-8、15-17 試掘坑位置図

第 7 試掘坑では、床面が 3 面（床 7-1,7-2,7-3）検出できた。第 7 試掘坑の西断面では、床 7-3 の下にアドベ・ブロックが多数みられた（図 6 a）。

第 8 試掘坑では床が 2 面（床 8-1,8-2）検出された。床 8-2 の下にはアドベ・ブロックの痕跡が多数確認された（図 6 b)。第 8 試掘坑では標高 720m で床面のような平らな部分があった。第 7, 8 試掘坑では、床下に石と土が観察された。床下の層では大部分がつき固められた土であったが、部分的にアドベ・ブロックが列を成していた。

床 6-1, 6-2, 6-3, 7-3, 8-2 の標高を以下に示す。

床	標高（m）	床	標高（m）
6-1	724.025	7-3	724.42
6-2	723.925	8-2	724.43
6-3	723.895		

第3次調査（2005年7-8月）では、第6試掘坑を拡張して発掘調査を行った。この調査は、東基壇の東と北側の壁と床を検出することを目的とし、第6試掘坑より北の方向に発掘区を拡張した。壁も床も検出できなかったが、非常に固い部分を検出した。第6試掘坑第3西拡張区では、床が2面検出できた（図5d)。第6試掘坑第2-7、9西拡張区と南拡張区では、床6-1～3のうち

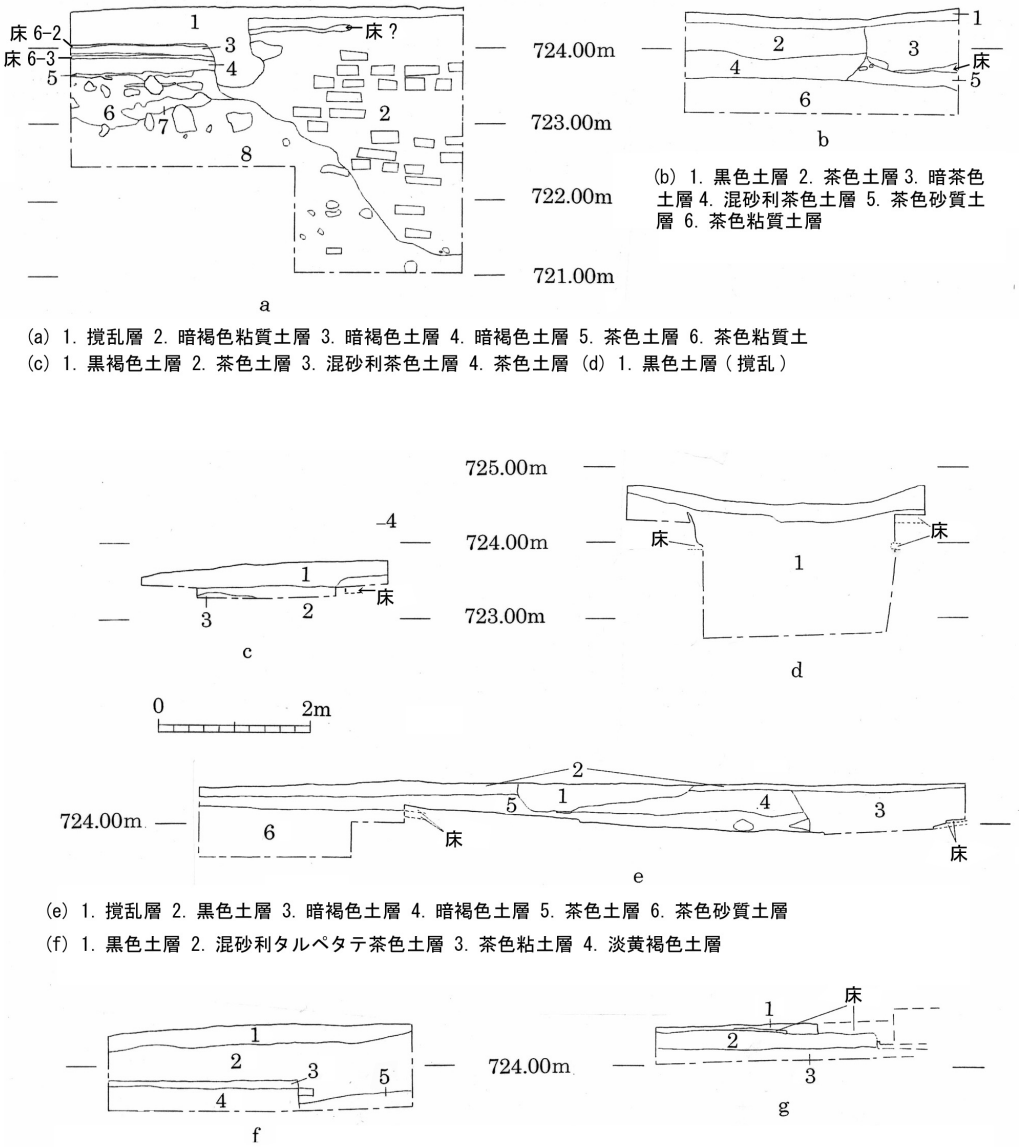


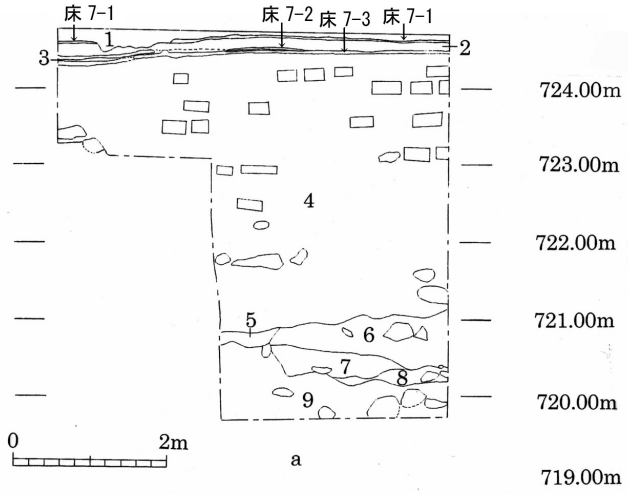
図5　第6試掘坑と拡張区の断面図

a= 第6試掘坑東断面 b= 北拡張区西断面 c= 第2拡張区南断面 d= 第3拡張区西断面

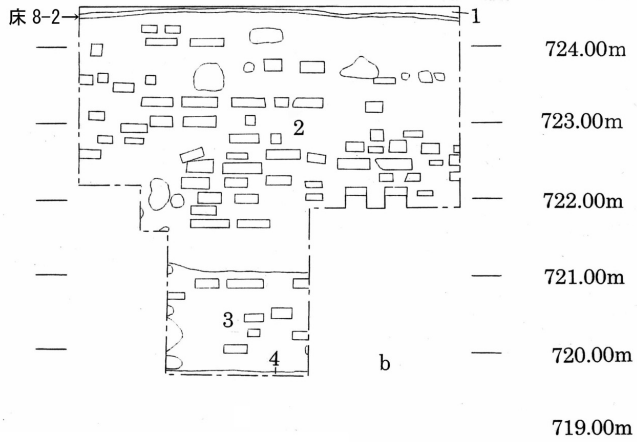
e= 第4-7, 9拡張区西断面 f= 第8拡張区西断面 g= 第1西拡張区南断面

一つに相当する床面が検出された（図 5 b-d, g)。第 6 試掘坑第 8 西拡張区で床は確認できなかったが、非常に固い層が検出された（図 5 f:5)。

第 6-8 試掘坑の発掘調査により、標高 720m と 724m で平らな部分が確認できた。このために、

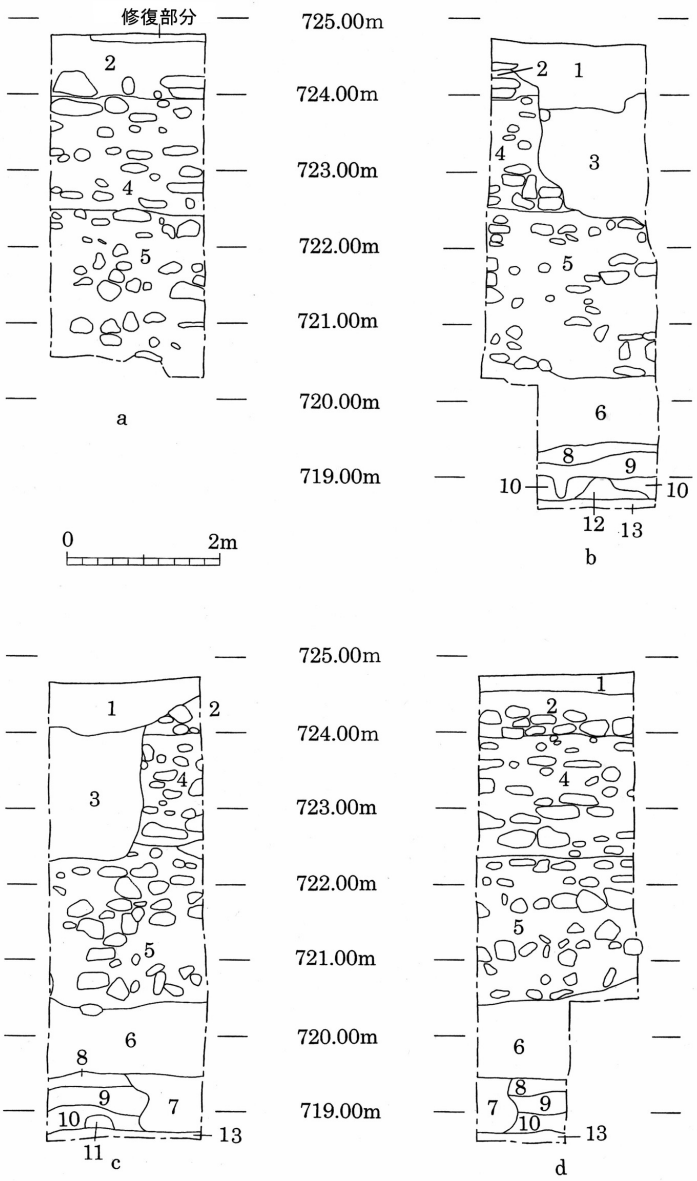


(a) 1. 黒褐色土層 2. 明褐色土層 3. 明褐色土層 4. 黒褐色粘質土層 5. 黄褐色土層 6. 茶色土層 7. 茶色粘質土層 8. 灰褐色粘質土層 9. 茶色粘質土層



(b) 1. 黒褐色土層 2. 黒褐色粘質土層 3. 明褐色粘質土層 4. 明褐色砂質土層

図 6 第 7, 8 試掘坑断面図
a= 第 7 試掘坑西断面、b= 第 8 試掘坑東断面

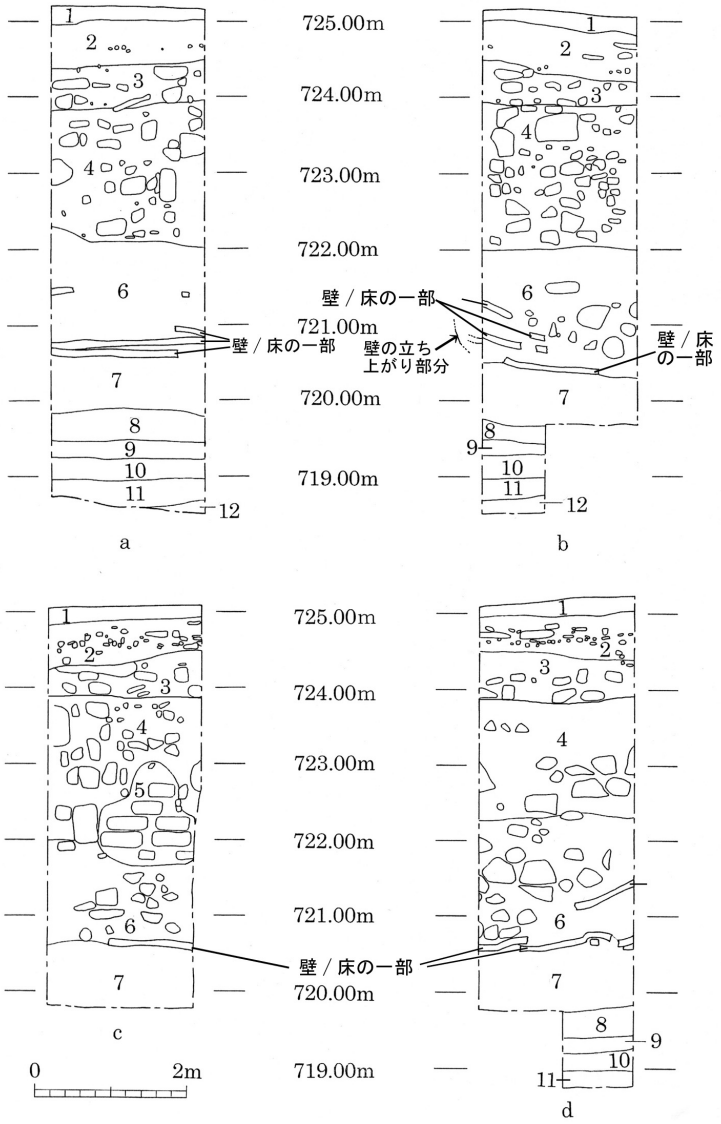


(a-d) 1. 黒色土層 2. 茶色土層 3. 茶色土層（固い） 4. 黄褐色土層 5. 茶色土層（固い） 6. 黒褐色土層 7. 黒褐色土層（緩い） 8. 茶色土層（青灰色粘土） 9. 黒褐色土層 10. 茶色砂質土層 11. 茶色土層（含赤色粘土） 12. 茶色土層（含赤色粘土） 13. 青灰色粘質土層

図 7 第 16 号試掘坑断面図

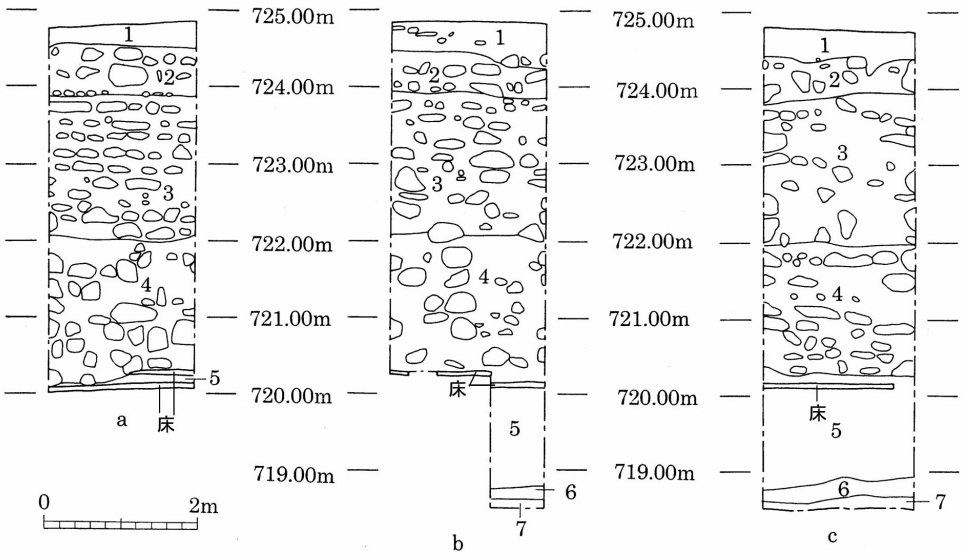
a= 北断面、b= 東断面、c= 南断面、d= 西断面

高さ約 4 m の建造物があったことが確認できた。そして、この建造物は様々な建築材（土やタルペタテの塊、粘土、他）で造られていた。



(a, b, c, d)
1. 黒色土層 2. 茶色土層 3. 黄褐色土層 4. 黄褐色土層（固い）5. 黒褐色土層（アドベを含む）
6. 黒褐色土層 7. 暗褐色土層 8. 黄褐色砂質土層 9. 青灰色粘質土層 11. 茶色砂質土層

図 8　第 17 試掘坑断面図



(a, b, c) 1. 黒色土層 2. 黄色土層 3. 黒褐色土層 4. 混粘土茶色土層（粘土を含む）5. 黒褐色土層
6. 茶色砂質土層 7. 黄褐色砂質土層

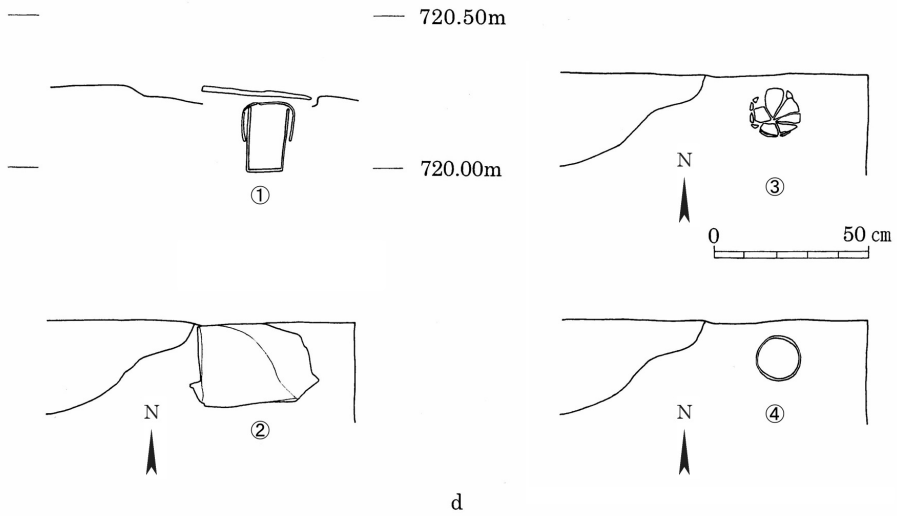


図 9　第 15 試掘坑断面図、供物出土状況図
a= 西断面 b= 北断面 c= 東断面
d= 供物出土状態図：①断面図　②平石　③鉢形土器　④円筒形土器

(2)B1-1 建造物の南側

第 4 次調査（2006 年 2 - 3 月）では、B1-1 建造物の南側で 3 つの試掘坑（第 15-17 試掘坑）で発掘調査を行った。数層の石と土の互層が確認された。試掘坑の断面をみると、数列の石列が確認できる。このために、最初に石を水平に置き、石の間に土を入れて固めたことが考えられる。

720mと 721mの間に床があり、その下は土の層が続いている。第 17 試掘坑では、720.50m近くで壁が立ち上がっている。第 15-17 試掘坑では、720mと 721mの間に床面がある。この床面は試掘坑の北にある南基壇の一部である可能性がある（図 7-9)。

第 15 試掘坑では 720m前後で、供物が出土した（図 9 d)。この供物は、円筒形土器と、その蓋となる椀形多彩文土器からなる（写真 1)。この多彩文土器の文様は様式化されたジャガーの顔を表現している可能性がある。その 2 個の土器の上には平石 1 個があったが、次の建設期に覆われてしまった。円筒形土器のなかには、小型板状ヒスイ 2 点、ヒスイ破片 50 点、二枚貝の破片 1 点、巻貝の破片 1 点、多数の獣骨、雲母、赤色顔料が入っていた（写真 2)。

⑶円筒形土器

文様は上下の水平方向の帯で分けられ、さらに垂直方向の 2 つの帯で 2 つの場面が浮彫りされている。各場面は頭飾りをつけた人物が表現されている（図10)。右側の人物は左の人物よりさらに飾られた頭飾りをつけている。両人物とも頭蓋変工を受けている。フンドシと着け、胸の前に容器を持っている。容器の上では放血儀礼を行っている。水平方向と垂直方向の帯状部分では、前に櫛状物後に●2 個が付いている人の顔が繰り返されている。以上のことを考慮すると、高位の人物若しくはタスマルの支配者である可能性がある。また、円筒形土器は南基壇の南東角から出土しており、後には B1-1 建造物で覆われてしまった。このことも合わせて考えると以下のような可能性がある。

南基壇を拡大する際に、前の支配者と共に新しい支配者の即位式が行われた。その時には、自己犠牲が行われた。同様に考えると回りに彫られた人の顔は、即位式を見つめる神若しくは支配者の先祖である可能性が考えられる。

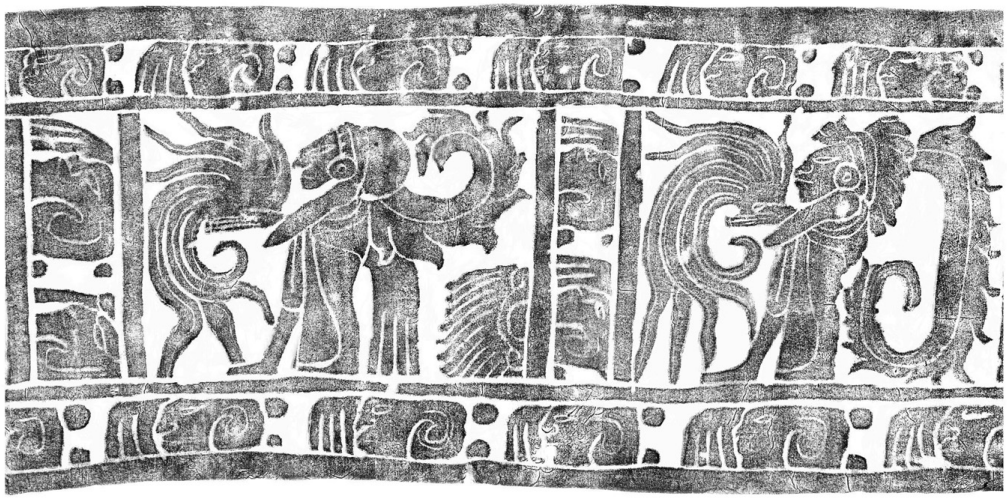
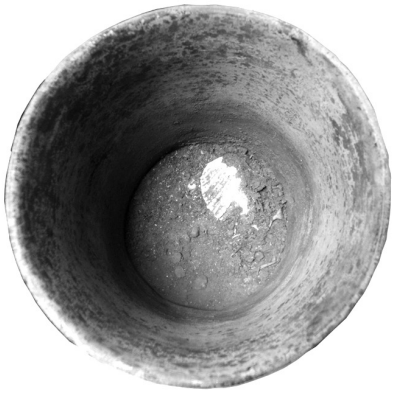


図10　円筒形土器拓影

1



2

写真1　出土した供物
1.鉢形土器と円筒形土器　2.円筒土器内部

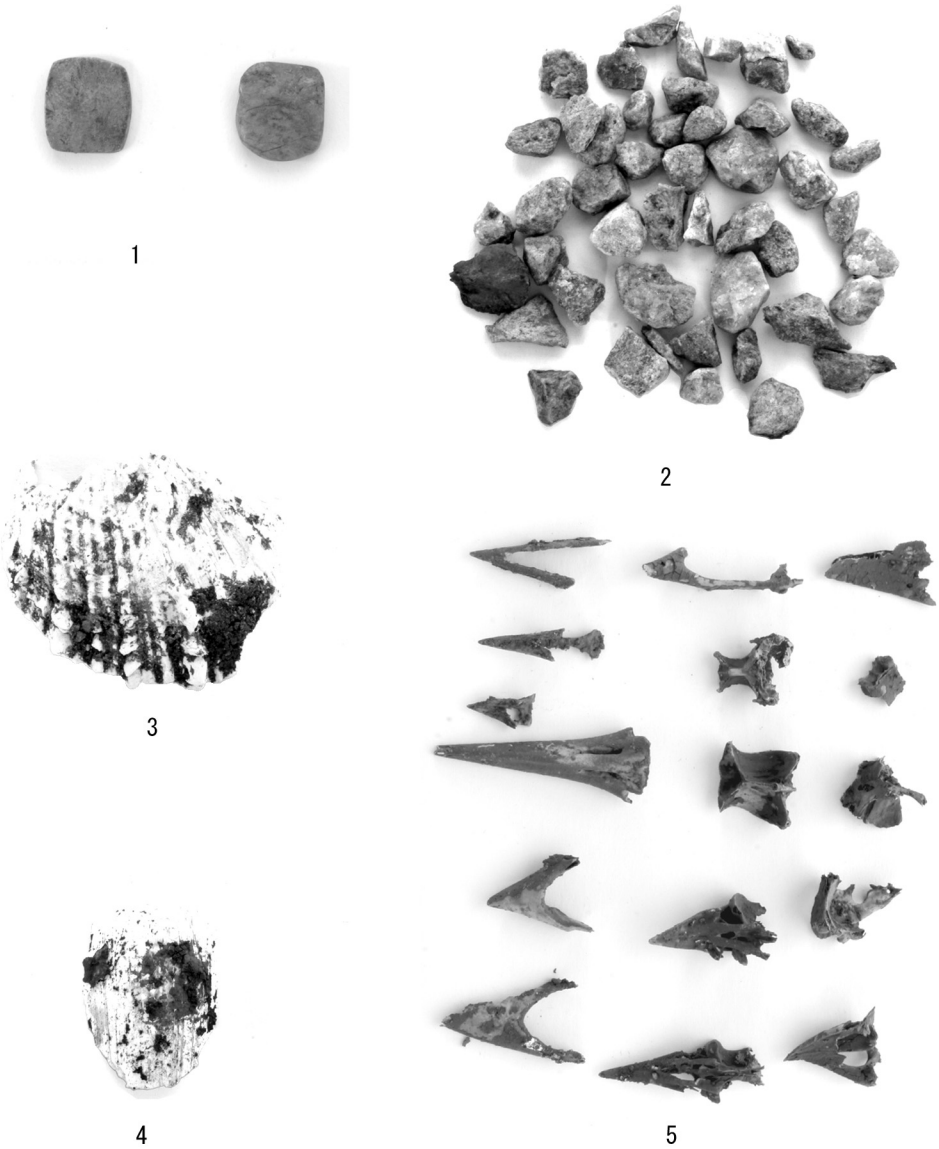


写真2　円筒形土器内より出土した遺物
1.小型板状ヒスイ　2.ヒスイ破片　3.二枚貝破片　4.巻貝破片　5.獣骨
（縮尺=4/5）

おわりに

B1-1 建造物の南側の 3 つの試掘坑では土が混じった石の層が検出された。東側では床下の層で土、アドベ・ブロック、タルペタテと土の塊が観察できた。このように、B1-1 建造物の東側と南側では建築材に違いがみられた。

B1-1 建造物の南側では、建造物の壁の立ち上がりが確認できた。この建造物は、仮説で考えられた南基壇の可能性がある。これが正しいならば、西・北・南基壇はその存在が確認される。一方、床 6-1〜3 とボッグスの掘ったトレンチを考慮すると、東基壇の存在が推定できる。現在得られている調査結果と建築材の相違を考慮に入れると、B1-1 建造物の建築史が以下のように組み立てられる。

1）東基壇が土とタルペタテの塊を主な建築材として建設される。

2）西基壇北基壇南基壇が建設される。西基壇がこの時期中心となる建造物であった可能性がある。

3）東基壇が他の西南北の基壇 3 基と建築上異なっていた可能性がある。

4）最後に、東西南北の基壇 4 基は覆われ、B1-1 建造物（ピラミッド）が建設された。

一方、南基壇を更新する際に、土器 2 点からなる供物が捧げられ、儀礼が行われた。この建設に伴う儀礼は即位式と関係する可能性がある。この場合、以下の 2 つの可能性がある。

1）新しい支配者の即位に伴って古い建物を覆って新しい建造物が造られた。

2）新しい支配者が即位に伴って神殿を新しく建造する必要があった。

注

[1] CONCULTURA が行っている調査は“Proyecto de la Investigación Arqueológica y Restauración en la Estructura B1-2 del Parque Arqueológico Tazumal”である。名古屋大学が行っている調査は、“Proyecto Arqueológico de El Salvador(PAES)”のうちの一つの調査と位置づけている。

[2] 南の部屋は未発掘である。

[3] 火山性の土。固まると非常に堅く緻密である。

参考文献

Boggs, Stanley H.

1943a “Observaciones respecto a la importancia de ‘Tazumal’ en la prehistoria salvadoreña.” *Tzunpame* I, pp. 127-138.

1943b ***Tazumal en la Arqueología Salvadoreña.*** *Suplemento de la Revista del Ministerio de Instrucción Pública* 7. El Salvador

1944 “Appendix C. Excavations in Central and Western El Salvador: II. Tazumal.” In ***Archaeological Investigations In El Salvador***, Memoirs of the Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University, IX(2), edited by J. N. Longyear, III, pp. 56-74

1945 “Informe sobre la tercera temporada de excavaciones en las ruinas de ‘Tatzumal’.” *Tzunpame* IV, pp. 33-45.

1950 “Archaeological Excavations in El Salvador.” In ***For the Dean: Essays in Archaeology in Honor of Byron Cummings on His Eighty-Ninth Birthday, September 20, 1950***, Hohokam Museums Association, Tucson, Arizona, and the Southwestern Monuments Association, pp.259-271.

謝辞：日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 B 海外、「メソアメリカに於ける古代都市の発展に関する研究」（課題番号 16401017）により調査を行ったタスマル地区考古学調査成果の一部である。また、測量調査に関してはテクノシステム㈱の協力を得て行っている。ここに感謝の意を表すものである。

Abstract

LA OFRENDA ENCONTRADA EN EL LADO SUR DE LA ESTRUCTURA B1-1, TAZUMAL

NOBUYUKI ITO Y SHIONE SHIBATA

El objetivo del proyecto de la Universidad de Nagoya era comprobar una hipótesis sobre el desarrollo arquitectónico del sitio. Se cree que en los lados este y sur de la Estructura B1-1 existían dos basamentos rectangulares enterrados por la Pirámide B1-1.

Se realizaron los 3 Pozos (Pozo 15, 16 y 17) en el lado sur de la Estructura B1-1 para confirmar la hipótesis. En el Pozo 15 se encontró una ofrenda de un vaso cilíndrico con un cuenco polícromo, como tapadera. Posteriormente, sobre las dos vasijas colocaron una laja en la esquina sureste del Basamento Sur. Dentro del vaso cilíndrico se encontraron, 2 plaquetas de jade, 50 fragmentos pequeños de jade, varios huesos de animales, 1 fragmento de concha, 1 pedazo de caracol, una cantidad de mica y de pigmento rojo.

Basado en los datos arqueológicos, podría presentarse la siguiente interpretación hipotética:

Al renovar el Basamento Sur se realizó un rito en el que colocaron una ofrenda de dos vasijas. Este rito relacionado con la construcción podría estar ligado con la toma de posesión del trono. Con base en la información, podrían surgir dos posibilidades, que para la toma de posesión del nuevo gobernante, se construyó una nueva estructura, que cubría la vieja o que el nuevo gobernante tuvo que renovar la estructura para celebrar su coronación.